

2017

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.48

実に交通事故の3.7倍！ 恐るべしヒートショックによる急死！ —入浴中の温度差による急激な血圧低下が失神の原因

超大型の台風21号の日本列島直撃と重なったさる2017年10月22日(日)に行われた第48回衆議院議員総選挙は、自民党の圧勝、民進党の壊滅的な状況の発生と立憲民主党の急伸という結果に終わった。

「大義なき解散」と呼ばれ、手応えのない選挙ともいわれたが、この投票日の数日前の10月19日(木)に、相撲ファンのみならず全国が驚くべき事故が報じられた。大相撲の元大関若島津こと二所ノ関親方が千葉県船橋市内で、自転車で走行中に倒れ、脳挫傷で緊急手術が行われたというモノであった。この事故の報道時に話題となり、事故の原因ではないかと疑われたのが「ヒートショック」という現象である。

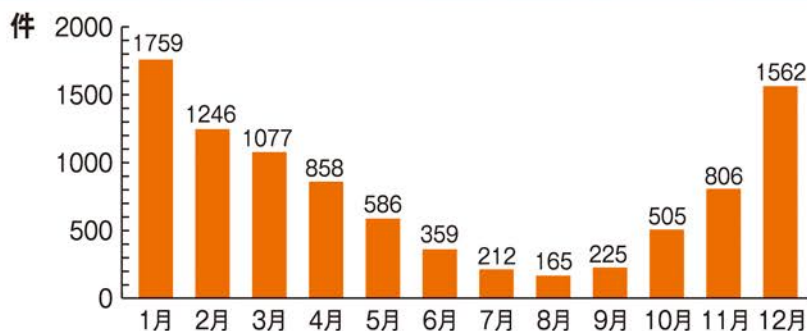
「ヒートショック」とは正式な医学用語ではないが、温度の急激な変化で血圧が上下に大きく変動することなどが原因となり起こる健康被害のことと言われている。失神や心筋梗塞、不整脈、脳梗塞を起

こすことがある。入浴時に急激な血圧低下により失神し、溺れて死亡するケースは、入浴時のヒートショックの典型的な例だという。

実際にヒートショックに関連した入浴中の急死者数の統計値を見ると少し古いデータになるが、2011年には年間約1万7000人と推計され、交通事故死者数の4611人の3.7倍近くにのぼる。

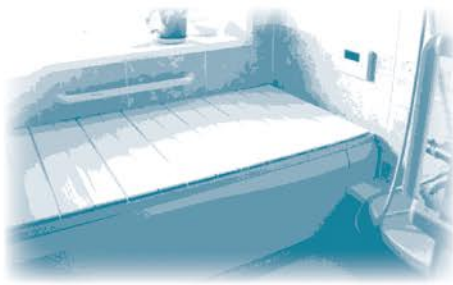
住宅内、しかも入浴中という事で、交通事故などに比べてはるかに生命の危険性が低いように思われるが、暖房をしていない脱衣室や浴室では、室温が10度以下になることが珍しくない。そのため寒い脱衣室で衣服を脱ぐと、体全体を露出し、急激に体表面全体の温度が10度程度下がる。すると寒冷刺激によって血圧が急激に上がる。それが心筋梗塞、脳卒中を起こす原因のひとつとされている。さらに、一度急上昇した血圧は、浴槽の暖かい湯につかることによる血管の拡張で、反対に急激に低下する。この急激な血圧低下が失神を起こす原因となる。

入浴中の心肺機能停止者数(2011年) 全国47都道府県635消防本部



二所ノ関親方も冷たい雨の降る中、部屋の近くの温浴施設に行き、入浴後に施設内でふらついて介護されていたという。その帰り道に自転車を走らせ転倒した。それゆえに「ヒートショック」が原因であると疑われたわけである。原稿執筆時点では、まだ意識が回復されていないとのことであるが、一日も早い全快を祈念するものである。

■参考資料 寒い冬のヒートショックに注意 入浴中の急死は夏の11倍に増加 <http://tokuteikenshin-hokensidou.jp/news/2013/003294.php>
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 入浴中の心肺機能停止者数(2011年)調査 http://www.tmghig.jp/J_TMIG/images/publication/pdf/heatshock.pdf



美楽からの一言

室内であり、リラックス出来る入浴という行為に危険性を感じる人はごくまれである。しかし、統計的にも数多くの方々が命をおとされている。これから寒い時期に向かう今、「ヒートショック」の可能性、危険性を改めて見直し、注意すべきではないだろうか。